

今号のトピックス ■THlnet 主催「子どもも大人も眼が危ない！」半日研修会の報告

■文科省『初の』眼(視力)の眼軸長調査



「スマホ+1人1台端末で子どもの眼が危ない!？」

～学校で、家庭で、何を どう気をつければいいのか?～

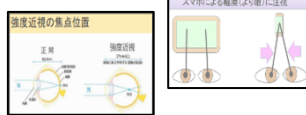
THlnet 開発委員会副委員長 ウッド 一美 さん

4月から全国で一人一台の端末が配備され、『GIGA スクール構想』が始まりました。様々な問題が山積していますが、その中でマスコミが指摘しているのは『眼』への影響です。強度近視と眼軸長については「超近視時代サバイバル(NHK1.24 放映)」でも報じられました。そのような状況を踏まえ、急遽 THlnet では「子どもも大人も眼が危ない!」と題して半日研修会を日曜日と平日の2回同一内容で開催しました。主催者であるウッドが報告します。

急遽募集に 29 名の参加者

短い募集期間にもかかわらず、29名の方が参加してくださいました。報道関係の方(6名)の参加もあり、関心の高さが窺えます。

内容は、強度近視の仕組みや将来の危険可能性や対策について、両眼視機能異常など。また、教材の監修者で支援者の岩手県眼科医 鈴木武敏先生の最新情報「スマホの長時間使用と奥行き知覚の変化について」のモデル授業(中学生対象)と解説版の講演を行いました。



参加者の知り合いも眼に異常

両日とも、研修会の最後には、質問や情報交換を行い、親交を深め、とても有意義な時間となりました。中には講演内容と同じ症状が出ている方を知っているという参加者の方もおり、講演でお話した症状を身近に感じる事となりました。そのお知り合いの方は、コロナ禍になり、タブレットを長時間見る機会が増えたことが要因とみられ、タブレットの使用を控えたところ症状がなくなっていったそうです。

子どもに(大人にも)一刻も早い啓発と対策を!

一人一台端末ということで、子どもたちは自分専用のものが持っていて喜んでいますが、眼への悪影響についての指導なしに子どもたちにタブレットが渡されている現状に危機感を覚えます。

両眼視機能の中でも、脳とつながっている視機能は、知らない間に異常になっており、また、強度近視はもとに戻ることはありません。これらのことを踏まえて、学校現場ではタブレット配布と同時に、新入生は勿論、保護者に対しても眼を守る対策や適切な使用について、パンフレット配布や学習会(講演会)を企画する等啓発・指導が急務であると感じました。



参加者の感想(アンケートから抜粋)

- 学校のタブレット環境等、把握しきれていなかったのが貴重な情報だった。スマホの使用時間に比例して見えてくる「身体等への影響」は様々なタイミングで伝えていく必要があると感じる。
- 非常にわかりやすく、質問にも丁寧に答えられていて、大変よかった。
- 両眼視が3歳までに完成されると聞き、スマホの危険性を再度感じたのと、外遊びの大切さ、この両者を同僚や保護者に伝えていきたいと強く思った。

文部科学省『初の』詳細調査(5~6月)

4/19付の新聞で文科省が小中学生の近視の現状を把握するために9000人を対象とする調査を実施する、と報じていました。

実施の背景は、デジタル端末の本格活用で視力への影響を懸念する声があるから、としています。

調査の内容は、「医療機関から派遣された検査技師が専用の機器で、近視により長くなるとされる角膜から網膜までの長さ“眼軸長”の測定。また、スマートフォンの使用時間や外遊びの頻度など生活習慣に関するアンケートも行い、視力への影響の分析」。

その結果を基に、適切な使用ルールの作成や屋外活動を増加させるなど、子どもの眼を守る対策を進めるとのことです。

ご意見・ご感想をお寄せいただけると幸いです。
連絡先: 養成協 HP よりメール(燈火編集長 矢野宛)